

学生と民間団体が連携してサロンを企画・運営する



高齢者サロン運営紹介



多世代交流「駅前サロン」の事例から

はじめに

私たち学生は、2016 年度から高齢者を対象とした「駅前サロン」の運営に参加しています。このサロンは、八王子市ふれあい・いきいきサロン支援事業の一事業として、八王子市民生委員・児童委員協議会第 4 地区の民生委員、ボランティア、八王子市社会福祉協議会、八王子市地域包括支援センター旭町（あんしん相談センター）の皆さんと連携して運営するものです。

活動は 2019 年度で 4 年目を迎え、実施回数は 36 回になりました（2020 年 1 月時点）。途中、連携団体担当者の異動、民生委員、ボランティアの方々のメンバーが変わるなどありましたが、4 年間継続することで安定した活動が出来るようになりました。2019 年度は「活動を見える化する」ことを目標にしました。「駅前サロン」の活動を参考事例にさせていただいて、他の学生や地域でサロンを行っている方々に、学生と地域が連携するサロンを広く展開してもらえるようにするためです。

サロンを実施している地域の団体は、町会やボランティアなどさまざまな主体があり、内容や開催の頻度もさまざまです。現在、八王子市内のふれあい・いきいきサロンは約 120 団体あります。サロン運営の中に、例えば月に 1 回、学生が企画・運営に参加する回が有ってもよいのではないのでしょうか。

八王子市内、多摩地域には多くの大学、短期大学、高等専門学校があります。大学コンソーシアム八王子加盟団体の学生数は約 11 万人です。学校のそばにあるサロンで活動すれば、交通費等学生の負担も少なく継続的に関わることが出来ると思います。本資料を参考にし「行政、民間団体、学生の連携」が促進され、サロン参加者はもとより、行政、民間団体、学生みんなの多世代交流による活動が広がっていききっかけになっていくことを願っています。

多摩大学経営情報学部梅澤佳子ホームゼミナール
「世代間交流八王子駅前サロンプロジェクト」学生一同

【八王子市ふれあい・いきいきサロン支援事業について】

〔実施主体〕 八王子市〔運営委託先〕 社会福祉法人八王子市社会福祉協議会

〔目的〕 高齢者の集いの場を運営する団体を支援し、地域でのレクリエーション・趣味活動等を通じ、高齢者の生きがいを高めることで、孤独感や引きこもりの解消等、地域社会における健康でいきいきとした生活の実現を図ることを目的としている。

※八王子市ふれあい・いきいきサロン支援事業実施要綱より
また、サロン情報の提供・サロン運営に関する各種相談・運営支援・保険の対応を行っている。

※ 本活動は、2016・2017・2018・2019 年度大学コンソーシアム八王子「学生企画事業補助金」対象事業として実施し、本資料は 2019 年度「学生企画事業補助金」により作成したものです。

I. 多世代でサロンを運営する魅力

1. 参加者にとって多世代交流の魅力は？

資料を作成するにあたって参加者の皆さんから伺った多世代交流サロンの魅力をご紹介します。

* 学生は話しやすい その①

サロンは女性の参加が多いため、男性は会話に入れず孤立してしまいがちですが、男子学生がいると仕事のこと、就職活動のこと、昔の話等々、話しやすく楽しめる。

* 学生は話しやすい その②

日常生活と離れているので、気軽に会話をすることが出来る。

* 若い人と話す機会が少ないので新鮮

普段は若い人と話す機会が少ないので、学生と話ができるのは新鮮である。

* 話題を選ぶことや、話し仕方に緊張感がある

「学生に聞いてもらえる話題は何か？」と考えたり、話し方に気がつかったりするので良い意味で緊張感がある。また、自分の知識を伝えてあげたいと思う。

* おしゃれをしたり、気取ったり

一般的なサロンは参加者も運営する側も年齢が限られているが、学生がいるサロンは、お洒落ができるのも楽しみ。普段、緊張感がないので気取ることも大切。

* 孫のメールや話しが理解でき、楽しくなった

若者ことばやメールに使うことば、学生生活、アルバイト、就職活動等々…色々なことを教えてくれるので、「り！」など孫のメールの意味がわかったり、孫との会話が楽しくなり、孫の様子も理解できるようになった。

* 孫のように見ている

孫が小さい頃はよく話したり、直接会ったりしていたが高校生、大学生になると会う機会が減るため、孫のように学生を見て話しをしている。

* 元気をもらえる

若者の活気から元気をもらえる。

* 学生たちの思いが嬉しい

学生が自分たちのために試行錯誤して本日の話題（学生生活の紹介、クイズ、からだほぐし等々）を用意し、Power Point に作ってくれていることがとても嬉しい。



他のサロンも同様だと思いますが、独り暮らしをしていると話相手がいないのでほとんど声を出すことや話しをすることがない、体操などからだを動かすことがないと聞きました。そのためサロンを楽しみにしているという方も多くいらっしゃいます。またこのサロンで知り合い、街中で声をかけられると嬉しい。人間関係が広がったことも魅力だと話してくれました。

2. 連携団体にとって、学生との連携の魅力とは？

連携団体の皆様から伺った「学生との連携の魅力」をまとめました。



* 若者の活気を取り入れることができる

一般的なサロンは同年代の集まりになりがちだが、若者が関わることで元気を与えてくれ、活気あるサロンになる。

* 企画について新しい発想を求めることができる

毎回「今日はどのような話題を提供してくれるのだろう、どのような学生が参加するのだろう」という楽しみがある。色々な話題が提供され、新しい発想を求めることができる。

3. 学生にとってサロンの魅力（学び）とは？

私たち学生がサロンを継続する中での学び、やり甲斐を紹介します。



* 多世代交流ができます

多世代交流を通じて、色々な方の思いや考え、関心のある話、趣味、昔の話、戦争、歴史を知ることが出来ます。

* 社会参加を実感できます

参加者だけでなく、サロンを運営する方々と一緒に活動することで生活世界が広がります。また、皆さんから自分たちの活動を認めてもらうことでやり甲斐を感じ、充実感が得られます。自信が生まれます。

* 目配り・気配り・心配りが学べます

サロン当日の運営を通して「足元に気を付けて下さい。」「お茶飲みますか？」など参加者全員に目配り・気配り・心配りを行うよう意識して活動できるようになります。フットワークの軽さが求められます。

* 対話力がつきます

大人と話すというと家族かアルバイト先の方になりますが、なかなか接する機会がなく、苦手意識がある高齢者の方々と話すことに慣れました。また、傾聴することの大切さが分かるようになります。他人との接し方も学ぶことができます。

* プレゼンテーション力がつく

司会進行を円滑に進める事が出来るように練習を繰り返し行い、人前で話す緊張感や話しを進める速度などを皆で修正することでプレゼンテーション力がつきます。

参加者の皆さんが楽しんで頂けるように明るく、元気に、大きな声でお話しをするように心がけています。人の前で話す練習になるので、人前に立つ恥ずかしさを克服できます。

* Power Point やチラシ、パンフレット作成を学ぶ

事前準備では当日使用する Power Point やサロンのチラシを作成します。高齢者に向けた資料のため、見分けにくい色を使わないように工夫しています。連携団体の方にもご指導いただくので、誰にでも見やすい資料作りを学ぶことができます。

* 企画力がつく

当日の運営では、学生が司会と「本日の話題」を担当します。自己紹介や季節のクイズ、簡単な手遊びなど、毎回話題を考えて参加者の皆さんに提供していきなかに企画力がつきます。

*** メールによるコミュニケーションが学べます**

大学関係者（教職員）以外の連携団体と報告・連絡・相談を行うことでメールの打ち方を始め報告・連絡・相談の仕方を学ぶことができます。初めて外部の人にメールを送るときは言葉遣いやメールのマナーなどを意識するので緊張します。

*** 企画書、報告書等文章作成が学べます**

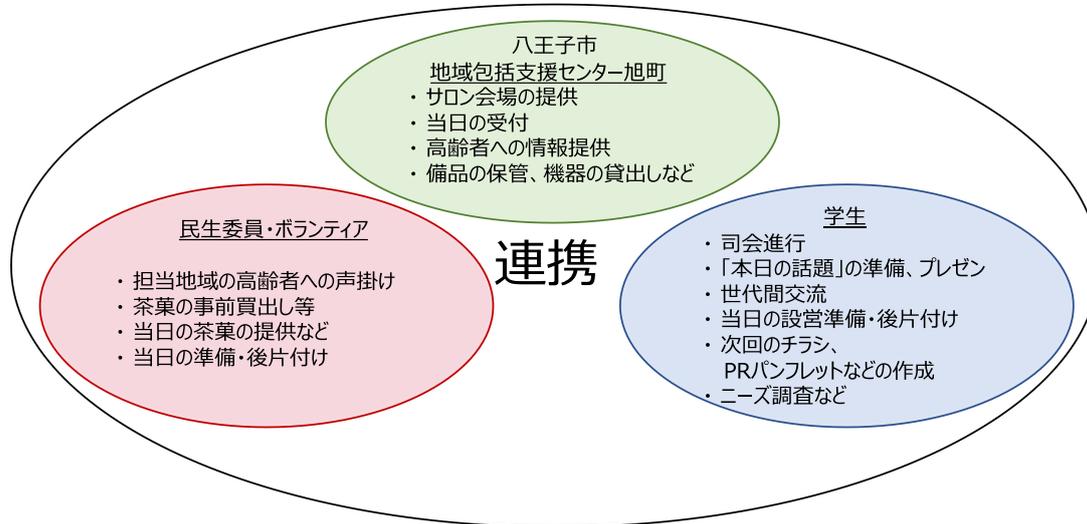
ゼミ内で事前打ち合わせを行い、企画書を作成します。事後は活動報告書を作成し、報告を行います。どのような活動をしたのか、反省会の内容、次回に向けての改善点などを次の担当者にわかりやすく伝える練習になります。

*** その他**

計画-実行-評価-改善（PDCA:Plan-Do-Check-Action）の感覚を掴むことができ、その重要性を肌身で感じて学ぶことができます。連携団体との報告・連絡・相談を緻密に行うことで、社会人としての基礎知識を学べると同時に、AIDMA：Attention-Interest-Desire-Memory-Action、AISAS：Attention-Interest-Search-Action-Share などビジネス的視点からも学べます。学校で学んでいることが活動につながるので、学校の勉強にも大切になります。

II. 「駅前サロン」の事例紹介

「駅前サロン」を運営するにあたっての主な役割



1. 「駅前サロン」プログラム

〔開催日時〕 月 1 回、第 3 木曜日（2 月、8 月を除く）年 10 回開催

14:00～15:30（90 分）

〔参加費〕 茶菓代 200 円 ※参加者から受付で頂戴します。

〔プログラム〕

13:30 受付

14:00～15:30 (90分)

- * 本日の話題 (30分程度) 担当：学生
- * ご歓談の時間 (40分程度) 担当：民生委員、ボランティア、学生
- * 歌の時間…合唱 2～3曲 (10分程度) 担当：民生委員、ボランティア
- * ワンポイントアドバイス…地域包括支援センターからの情報提供 (5分程度)
担当：地域包括支援センター旭町職員
- * 体操…お帰りに身体を動かすことで、ケガや事故を防ぐ。(5分程度)
担当：地域包括支援センター旭町職員



2. 運営側の当日スケジュール

13:00 民生委員、ボランティアの集合

茶菓の用意

13:30 学生集合 ※午前中の講義を終えて移動となるため。集まれる学生は13:00に集合する。
連携団体の皆さんの手伝い。ビル入口でのお迎え。

受付担当：地域包括支援センター旭町職員

14:00～15:30 駅前サロンの運営

15:30～16:00 後片付け

16:00～17:00 反省会



①PCの設営



②テーブルセッティング



③玄関でお迎え



④受付



⑤茶菓の提供



⑥本日の話題



⑦ご歓談の時間



⑧歌の時間



⑨体操の時間



⑩玄関までお見送り



⑪後片付け



⑫反省会

3. 毎月の活動に向けての事前・事後運営スケジュール（流れ）

	学生	民生委員、ボランティア
3週間前	<ul style="list-style-type: none"> * サロン報告書の作成、担当したメンバーでチェック後、ゼミ教員チェックを経てグーグルドライブへアップ。 * 完成した報告書をもとにゼミ内で情報共有(報告)。活動内容、反省会の内容、改善点を共有する。 * 次回担当者は次回のプログラムの検討に入る。 	<ul style="list-style-type: none"> * 「歌の時間」で合唱する歌の選曲（2・3曲）と歌詞の作成（パワポ）。
2週間前 から 1週間前	<ul style="list-style-type: none"> * 「本日の話題」の内容を作り込み、パワーポイントを作成後、ゼミ内で予行プレゼン。修正等を行う。 * 「歌の時間」用パワーポイントを取り込み、当日のパワーポイントを完成させる。 * 道具の準備 * 参加者に配布する次回サロンの案内（チラシ）の作成、チェック 	<ul style="list-style-type: none"> * 歌のパワポを学生にメールで送付。
開催週	<p><u>4日前</u></p> <ul style="list-style-type: none"> * ゼミ担当教員のチェックを経てチラシの印刷。 * ゼミ内で司会や「本日の話題」の最終プレゼンとチェック。 * 完成したパワーポイントを各連携団体担当者にメールで送付し、ご確認いただく。 <p><u>当日</u></p> <ul style="list-style-type: none"> * サロンの運営、反省会 	<ul style="list-style-type: none"> * 菓子の購入

「駅前サロン」の事前準備で心がけていること（学生側）

- ① 参加者の皆さんの希望や要望を聞き取り、楽しく和やかなプログラムになるよう企画する。
- ② 「駅前サロン」のコンセプトは「ゆったりサロン」である。イベント中心にならないようにしながら、学生企画「本日の話題」と歓談の時間のバランスを注意してプログラムを考える。
- ③ 企画は高い完成度を求め、一切の妥協をしない。
- ④ 外部と連携しているため、提出物等の期日は必ず守る。
- ⑤ 学生間、連携する団体と情報共有をしっかりと行う。

「駅前サロン」運営時に心がけていること（学生側）

- ① 高齢者の対応に慣れていないことを自覚し、参加者ができるだけ自分で行動できるように見守りつつ、ケガや事故が起こらないように注意する。
- ② 参加者の話し相手をするだけでなく、参加者の皆様が互いに繋がりを持ってもらえるよう、掛橋になることを意識する。
- ③ サロンに参加したことで「駅前サロン」以外の場所でのお付き合いが生まれ、地域との関係が広がるような関わり方や取り組みを行う。
- ④ 体調管理に十分気をつける。ご高齢の方々を対象としたサロンなので、体調不良の場合は絶対に無理せずゼミ内で担当者を調整する。
- ⑤ 時間厳守。ドタキャンはしない。

「駅前サロン」の事前準備で心がけていること（連携団体側）

- ① 情報の共有については迅速かつ正確に行う。
- ② 参加者へお誘いの声かけをする。
- ③ 新しい参加者を募る。

「駅前サロン」運営時に心がけていること（連携団体側）

- ① 参加者も運営する人も怪我、事故が起きないように細心の注意を払う。
- ② 月1回のサロンではあるが、飽きさせないようにする（マンネリ化を防ぐ）。
- ③ 参加者の様子に変化などがないかチェックする。
- ④ サロン終了後には反省会をし、次に繋げる。

学生と連携する際に心がけていること（連携団体側）

- ① 学生は講義や試験などを優先すべく、無理のないスケジュールで関わられるように配慮する。
- ② 学生が参加できない場合(月)は、「本日の話題」を準備する。
- ③ 学生とできるだけ情報を共有するように心がける。
- ④ 会場提供側としては、気持ちよく、いきいきと活動できるように心がける。

Ⅲ.連携する団体の探し方

1. **活動を希望する学生の皆さん**は、以下のところにご連絡ください。

- 八王子市社会福祉協議会支えあい推進課

〒192-0081 東京都八王子市横山町 11-2 金子ビル 4 階

TEL : 042-649-8477

- 大学コンソーシアム八王子事務局

〒192-0083 東京都八王子市旭町 9-1 八王子(東急)スクエアビル 11 階

八王子市学園都市センター内 TEL : 042-646-5740

2. **学生と一緒に活動してみたいと考えて下さるサロン関係者の皆さん**は、以下のところにご連絡ください。

- 八王子市社会福祉協議会支えあい推進課

〒192-0081 東京都八王子市横山町 11-2 金子ビル 4 階

TEL : 042-649-8477

- 各学校に設置されている学生の社会活動を支援する組織

学生ボランティアや地域活動を行っているゼミやサークルについては、ボランティアセンター、地域連携センター、産官学民連携センター等にご連絡、ご相談ください。連絡先は学校のHPに掲載されています。組織の名称は、学校によって異なります。

謝辞

「世代間交流八王子駅前サロンプロジェクト」は、2016～2019年の4年間、大学コンソーシアム八王子「学生企画事業補助金」をいただいています。おかげさまで36回の「駅前サロン」を運営することができました。時々、八王子市の職員、社会福祉協議会の職員、民生委員の方々や医療福祉系の学生が見学してくれます。皆さんが興味を持って下さる中、私たちはこのような活動を多くの学生、サロンを運営している方々に展開してもらえるような形にしたい、それが活動を支えて下さった「大学コンソーシアム八王子」にお返しできるひとつの形であると考えました。私たちに連携団体をご紹介下さりご支援いただいた「大学コンソーシアム八王子」に御礼申し上げます。また、海のものとも山のものともわからない学生たちを受入れて下さり、我慢強く連携して下さっている八王子市民生委員・児童委員協議会 第4地区の民生委員、ボランティア、八王子市地域包括支援センター旭町（あんしん相談センター）の皆様、私たちの活動を温かく受け入れて下さる「駅前サロン」参加者の皆様に関心より感謝と御礼を申し上げます。

【多摩大学梅澤ゼミ】

私たちの所属するゼミは、社会学を学び、自分たちが出来ることで地域の課題に取り組む活動を行っています。特に「継続する」ことを重視しています。ゼミはこれまで8つのプロジェクトを実施しました。現在は3つのプロジェクトが継続的活動を行っています。2つのプロジェクトは、公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩主催「多摩の大学生第1回まちづくりコンペティション2014」（現：多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション）において最優秀賞、奨励賞を受賞、本プロジェクトは2016～2019年度大学コンソーシアム八王子「学生企画事業補助金」の対象事業となっています。

【作成者】

多摩大学経営情報学部梅澤佳子ゼミ

2019年度世代間交流八王子駅前サロンプロジェクトメンバー 菅原侑士・高橋 亮

【本資料に関するお問合せ先】

多摩大学経営情報学部梅澤研究室 担当教員：梅澤佳子 e-mail：omezawa@tama.ac.jp

【作成日】2020年1月26日